

2025(令和7)年5月16日



発行 読書の森 読みむし in ちの

編集 広報事業部

事務局 茅野市教育委員会 生涯学習課内

電話 0266-72-2101



未就園児対象の子ども読書の日おはなし会

未就園児、小学生楽しむ

子ども読書の日 玉川のびのび館

毎年4月23日は「子ども読書の日」。子どもの読書活動の推進に関する法律に基づいて、2001（平成13）年に定められました。

茅野市では同年から、継続して「子ども読書の日」に幼保育園、学校、図書館、地区こども館などで子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに、家庭や地域の大人の皆さんにも子どもと一緒に読書することの大切さを伝えています。

玉川のびのび館では4月23日、「子ども読書の日おはなし会」を開催しました。

午前中は未就園児と親子を対象におはなし会を催し、生後11カ月から2歳までの3組が参加しました。親子ふれあい遊び『さかながはねて』、紙芝居『みんなでポン』『の一びたのびた』絵本の読み聞かせ『しろくまちゃんのおかいもの』『くまくんのハッピーバースデー』を読みながら、家庭で親子が絵本を仲立ちにして、会話しながら楽しんでほしいと伝えていました。

午後は、小学生対象のおはなし会。学校帰りの約20人が参加しました。パネルシアター『変身おばけちゃんのはらぺこ大冒険』、読み聞かせ『光の旅 かげの旅』『てじな』など「変身」をテーマにしたもの。みんなで折り紙マジックを作って楽しみました。

読書の森
読みむ in ちの 25周年記念

2025
7/13 (日)

永明小・中学校
3階 えいめいホール

絵本作家

鈴木まもるさん

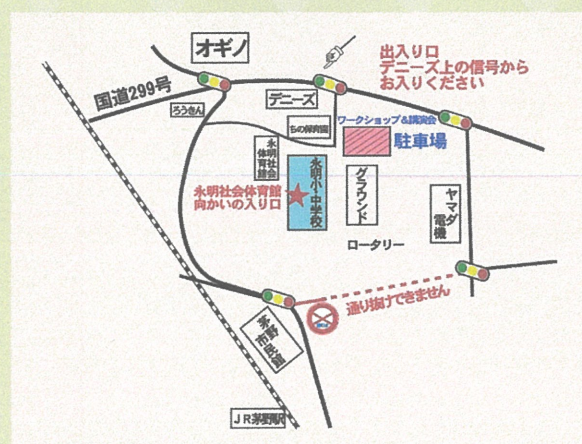
ワークショップ & 講演会

絵本と鳥の巣の不思議

一鳥の巣が教えてくれることー



会場地図



申し込みは
QRコードか電話で

6月9日(月)
受け付け開始



問い合わせ・申し込み先
読書の森 読みむ in ちの事務局
(茅野市教育委員会生涯学習課内)
電話 0266-72-2101 内線 635

午前の部

ワークショップ 鳥の巣作ろう

9:30~11:30 (受付9:00~)

定員
50組100人

材料費 1組 100円
対 象 どなたでも 1人から
3歳から小学生までは大人同伴
持ち物 上履き、作品持ち帰り用の袋、
使いたい材料
小枝、ボタン、針金など何でもOK



午後の部

講演会 絵本と鳥の巣の不思議

1:30~4:00 (受付1:00~)

参加費 無料
対 象 どなたでも
未就学児は大人同伴
持ち物 上履き

定員
80人

書籍販売
サイン会
あります

講師プロフィール

1952年、東京都生まれ。
東京芸術大学中退。

『黒ねこサンゴロウ』シリーズ(偕成社)で赤い鳥さし絵賞を、
『ぼくの鳥の巣絵日記』で講談社出版文化賞絵本賞を、『ニワシドリ
のひみつ』(岩崎書店)で産経児童出版文化賞JR賞を受賞。主な絵
本作品に『ピン・ポン・バス』『がんばれ!パトカー』(偕成社)、
『せんろはつづく』『つみきでとんとん』(金の星社)、エッセイ
に『バサラ山スケッチ通信』(小峰書店)などがある。



偕成社



岩崎書店



偕成社

私の1冊

『鳥の巣いろいろ』

私が鈴木まもるさんの絵本に初めて出合
ったのが、この『鳥の巣いろいろ』です。
見たことのない鳥の巣がいくつも並んだオ
レンジ色の表紙に目を奪われ、手に取りま
した。

子どもといっしょにページをめくると、
次々と現れる鳥の巣に興味津々。大きな鳥
の巣、不思議な形の鳥の巣、からくりみた
いな構造の鳥の巣。材料だって様々です。
鳥ってすごい!鳥の巣って面白い!

素材の質感や、鳥の気持ちまで伝わっ
てくるような、繊細に描かれた絵を見ている
だけで、自然の豊かさが感じられ、心が解
き放たれる1冊です。

大西恵美

作・絵/鈴木まもる
偕成社



市外からの参加者も

「とても楽しみにしている」

茅野市図書館 第5土曜のおはなし会 3月



お話の世界に入り込み、笑いが絶えないおはなし会

読りーむ in ちのが第5土曜に担当している、茅野市図書館の楽しいおはなし会。3月29日は雪模様でしたが、4家族12人が集まりました。

手遊び「キャベツの中から」で始まり、パネルシアター『変身おぼけちゃんの大冒険』、絵本『みたらみられた』の読み聞かせ、紙芝居『まんまるまんま たんたかたん』、大型絵本『ぞうくんのさんぽ』を演じました。

0歳から3歳くらいまでの小さな子がほとんどでしたが、お話の世界にしっかり入り込んでいました。笑いが絶えない和やかな会でした。

市外から来たという親子は、「おはなし会をとても楽しみにしている」とうれしそうに話をしていました。



第2回読書ボランティア交流会（茅野市子ども読書活動応援センター、読りーむ in ちの共催）が2月22日、ゆいわーく茅野で開催し約20人が参加しました＝写真。スキルアップと交流を目的に毎年2回開催。

今回は市内の保育園・認定こども園、小学校、中学校、市図書館の読書ボランティアのほか、まだ活動はしていないが、興味があって参加したという学生も。コロナ禍の活動状況はどうだったのかを中心に情報交換しました。

「絵本の話のパネルシアターやペープサートなどに改変した際、著作権の承諾を受けることの難しさを知った」「コロナ禍、ボランティアによる読み聞かせを中止するお知らせがあったが、5類に移行後、読み聞かせの再開時期については学校によって違っていったのか、お知らせはなかった」「コロナ禍中に入園、入学した子どもたちや市内に異動してきた教諭らは、読み聞かせは自分の席で聴くことに慣れているせいか、絵本が見える場所に集まって聴くようになるまでに時間がかかった」などの意見が出ました。

参加者は少なめでしたが、持ち寄った情報を交換できたことは有意義で、1人ひとりの顔を見て話し合うことの大切さに改めて気づかされました。